

(別添1)

No.	1
策定年月	令和3年6月
見直し年月	

麦・大豆生産性向上計画

福井県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

福井県は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約65%を占める水田地域である。近年、主食用米の国内需要が減少する中で、水田面積を維持し、安定した水田農業経営を実現するには、新規需要米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大に当たっては、生産者戸数が減少し、担い手への集積が急速に進む中で、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要のある品種の生産を推進するとともに、実需者の求める品質と安定収量を確保するための栽培技術の導入を進めていく。

現在、福井県においては、新・ふくい農業基本計画および水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組みをより具体化するとともに、関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

(2) 県で推進する団地の基準等

福井県においては、作業効率等を考慮し、「団地」はおおむね1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本県の大麦は主に県外へ麦飯用などとして販売されているが、生産量は実需からの購入希望数量を満たしておらず、増産を図る必要がある。また小麦は全量が県外で製粉され、県内向けに供給されている。

・大豆については、関西を中心に主に豆腐用として卸業者に向けて販売されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、増産を図る必要がある。

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦、大豆とも横ばい傾向で推移しており、単収は、天候の影響により豊凶の差が大きい。

この原因としては、播種時の湿害や土壌改良資材の不足が考えられ、収量を向上させるため、湿害回避技術の普及や土づくりの徹底などが課題となっている。

さらに、近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、作業適期の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、播種作業の効率化など生産性の改善が課題となっている。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)	
大麦	ファイバースノウ	(4,478)	4,478	(3,525)	3,525	(3,567)	3,567	(135)	135	(268)	268	(270)	270	(6,045)	6,045	(9,447)	9,447	(9,631)	9,631
	はねうまもち	(40)	40	(825)	825	(860)	860	(128)	128	(244)	244	(286)	286	(51)	51	(2,013)	2,013	(2,460)	2,460
小麦	福井県大3号	(181)	181	(146)	146	(142)	142	(146)	146	(155)	155	(134)	134	(264)	264	(226)	226	(190)	190
作物計		(4,699)	4,699	(4,496)	4,496	(4,569)	4,569	(135)	135	(260)	260	(269)	269	(6,361)	6,361	(11,686)	11,686	(12,281)	12,281

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)						生産量(t)					
		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)	
大豆	里のほほえみ、 エンレイ	(1,820)	1,820	(1,850)	1,850	(1,810)	1,810	(153)	153	(120)	120	(121)	121	(2,785)	2,785	(2,220)	2,220	(2,190)	2,190
作物計		(1,820)	1,820	(1,850)	1,850	(1,810)	1,810	(153)	153	(120)	120	(121)	121	(2,785)	2,785	(2,220)	2,220	(2,190)	2,190

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現

麦については、実需と連携し、ファイバースノウとはねうまもちを合わせて5,000ヘクタールの作付けを目標とするとともに、売れる麦作りのために硝子率の低減や容積重の確保など品質の向上を図る。また小麦の作付けは200ヘクタールを目標とする。

大豆については実需者の国産大豆への需要に応じた生産を確保するため、大豆栽培に適した産地における大麦跡の周年作付を中心に作付面積を拡大し、排水対策や病虫害対策等の徹底を図るとともに、「里のほほえみ」の特性に応じた栽培指導を徹底し、収量・品質の向上に努める。

②団地化の推進

人・農地プランによる農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを推進する。土壌・排水条件・作業の効率化等を勘案した団地化の推進に向けた計画を各産地が作成できる環境を整備する。

③土づくり

土壌診断に基づく土壌改良材の施用による土壌pHの最適化や、土づくり資材の施用を推進する。

④排水改良

排水の改善に向けては、額縁排水と圃場内排水路の施工を溝堀機により深く施工すること、またサブソイラにより補助暗渠を施工することを徹底する

⑤新たな需要の拡大

地産地消の推進や6次産業化の支援を通じ、県産麦・大豆の消費拡大を推進する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進について必ず記載する。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)						令和9年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大麦	ファイバースノウ	(3,567)	3,567	(270)	270	(9,631)	9,631	(4,200)	4,200	(320)	320	(13,440)	13,440	
	はねうまもち	(860)	860	(286)	286	(2,460)	2,460	(800)	800	(320)	320	(2,560)	2,560	
小麦	福井県大3号	(142)	142	(134)	134	(190)	190	(200)	200	(280)	280	(560)	560	
作物計		(4,569)	4,569	(269)	269	(12,281)	12,281	(5,200)	5,200	(318)	318	(16,560)	16,560	

作物名	品種名	令和元年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆	里のほほえみ、 エンレイ	(1,810)	1,810	(121)	121	(2,190)	2,190	(1,900)	1,900	(220)	220	(4,180)	4,180	
作物計		(1,810)	1,810	(121)	121	(2,190)	2,190	(1,900)	1,900	(220)	220	(4,180)	4,180	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

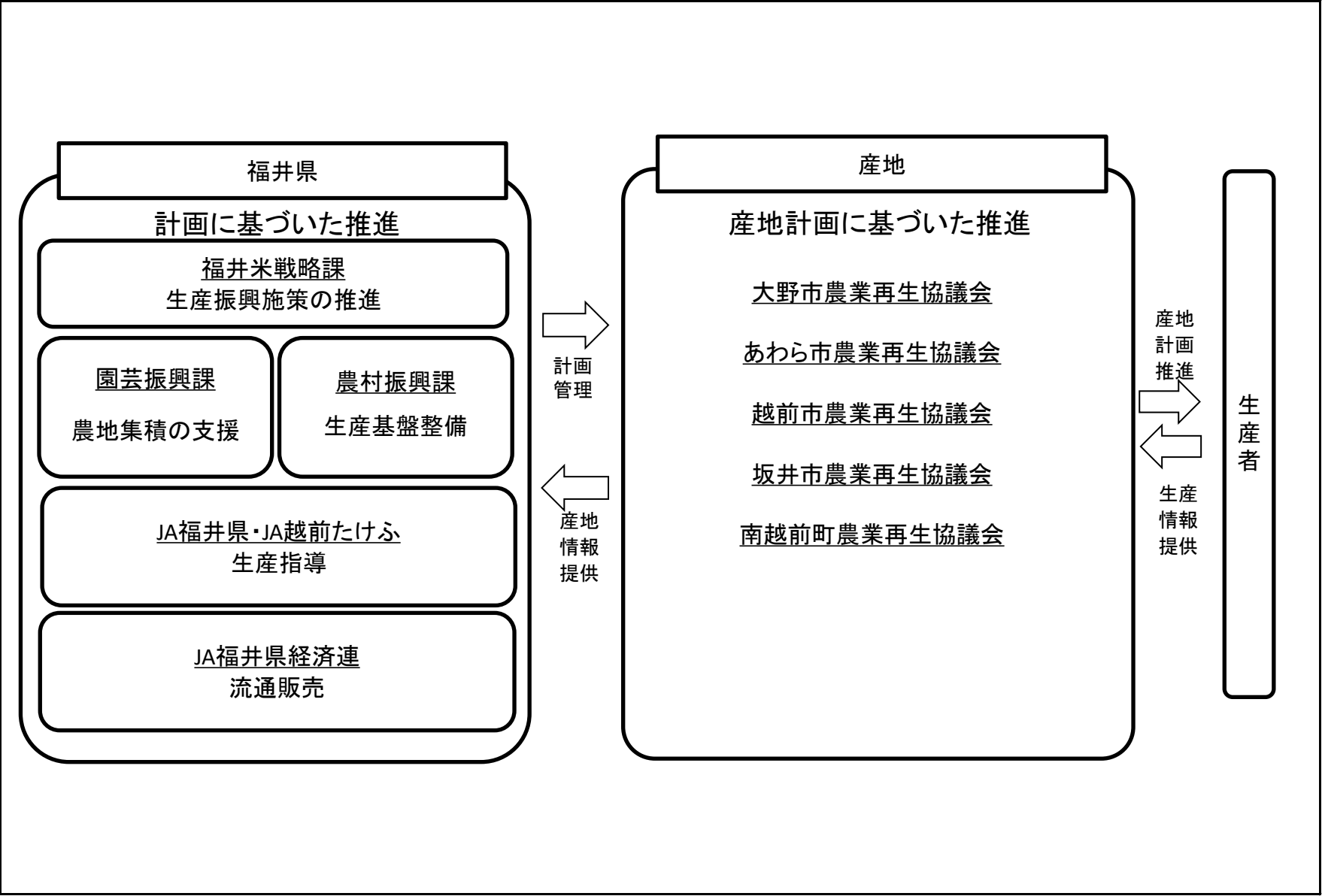
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	新ふくいの農業基本計画	平成31年	
2	人・農地プラン	各地域による	
3	水田収益力強化ビジョン	令和3年	
具体的連携内容 本計画の実施に当たっては、県の新ふくいの農業基本計画および水田収益力強化ビジョンとの整合を図ることとする。 また、団地化の推進に当たっては、各地域で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が効果的に活用されるよう努める。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	当該事業により麦・大豆の団地化や先進的営農技術の導入、機械施設導入による生産効率の向上を目指す。

※県段階で想定している事業名について、記載すること。
 ※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。
 ※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。